

緑の募金 だより 秋 2019

皆様から寄せられた大切な「緑の募金」を、
国内外での森づくり、人づくりに活用しています。



人々と森林をつなぎ、
森林がもたらす豊かな暮らしを未来につないでいくために、
緑の募金は、地域の人々の身近な緑化活動や
次世代が参加する森林体験活動などの支援に、
大切に活用されています。



「災害に強い森づくり」活動(新潟県)



緑の募金

「緑の募金」にご協力をお願いします

春の新緑シーズン(1~5月)と秋の紅葉シーズン(9~10月)を中心に
家庭募金・街頭募金・職場募金・企業募金・学校募金などによって行われています。



森林のある豊かな暮らしを未来へつなぐために、

1 「人にも自然にも優しい地域づくり」を応援！

北海道弟子屈町

遊休地となっている飛行場跡地を、自然を活かしながら地域住民や観光客が楽しむための森づくりの場として活用し、同時に環境に対する意識向上と共生社会の実現を目指して植樹活動と木工教室などを実施。これまでの植樹参加者は、地域住民、子どもたち、障がい者に加え、植樹プログラムなどが含まれたツアー観光客を含め延べ400人を超えています。



2 「地域のシンボルを守り、地球温暖化防止への意識を高める森づくり」を応援！

鹿児島県鹿児島市

「緑を育み自然を大切に作る心」の育成を目的に、桜島近隣の小・中学校の「緑の少年団」が自ら、どんぐり拾い、種まき、鉢上げ、鉢替え等の育苗を3年間行い育てた「どんぐりの苗」を鹿児島市のシンボル桜島で植栽。下刈り作業から植栽には、小・中学生及び保護者など約600人が参加しました。



3 「水源林・森の恵みと活用を学ぶ森林体験」活動を応援！

山梨県小菅村

都市部の母と子を対象に、都市の生活を支えている森「水源林」を活用して、自然がもたらす豊かさを体験し、自然の大切さを学びながら水源林の森の整備を行う環境教育プログラムを実施。あわせて、自然のなかで母と子が一緒に過ごす時間を提供しました。



4 「地域の子どもたちの自然学習の場となる森づくり」を応援！

群馬県高山村

高山村の水源林のシンボルとなり、「森林」と「水」と「生活環境」について子供たちが自ら考えられる「学びの森」となるフィールドづくりを実施。

子どもたちと一緒にフィールド内の整備や自然観察を行い、森林の中で植物の種類を知ることの楽しさや子どもたち自らが遊びを考えて過ごす時間の提供を行いました。



令和元年5月14日上毛新聞(地域版)

5 これまでも、これからも「災害被災地の復旧や緑のある豊かな生活」を応援！

福岡県朝倉市

九州北部豪雨での被災地域の復興支援として、子供たちや被災者の共同生活の充実が図れるように、福岡県産木材を使用した遊具、プランター、テーブル、ボックス、靴箱、本棚や緑化木等の贈呈を行いました。



宮城県登米市

植林や下刈り、そしてキノコ採りなどの「緑とのふれあい」を通して、沿岸被災住民と山村住民が交流を図りながら、森林づくりの重要性を確認するとともに、東日本大震災からの復興を誓いました。

6 「地域住民の水資源の確保や土砂災害防止のための森づくり」を応援！

マダガスカル共和国

森林火災の多く起こるマナサムディ山地のアンジアマングラーナ地域では、監視森林地域の保全と村の水資源涵養を目的に地域の学校生徒への植林指導や国道沿いの並木の植林を行いました。また周辺

アンジアマングラーナ村
では、森林資源の再生と土砂災害を防止することを目的に、およそ1,200人の住民と一緒に植樹を行いました。



アンボヒダハ村

緑の募金は、

国内の森林を
元気にする

森づくりのリーダーを
育てる

森や里山で
子どもたちを育む

災害被災地の
復旧

地球の
緑をふやす

などの活動を
応援しています。

緑化運動のあゆみ

新時代の立役者

陶磁器の産地で知られる愛知県瀬戸市。時代に先駆け、欧州式の治山工事が実施された丘＝写真＝は、緑豊かな雑木林になっていた。

愛知県は、岡山、滋賀両県とともに「3大はげ山県」と呼ばれた。江戸時代以降、農地拡張や陶器づくりの燃料、陶土集めに森が乱伐され、愛知県が欧州式工事を実施したのは1905年。はげ山は植林と育林で姿を消していく。

人工林の成熟により森林は育てる時代から利用する時代に入り、令和の時代を迎えた。都市部では木造・木質建築物が増え、癒しや防災の効果を木材や森林に求める動きが加速している。

今年の全国植樹祭が、この愛知県で開かれたことは意義深い。「水は清き、青き山」を再び、はげ山に戻してはならない。（毎日新聞記者・山本悟）



森林を守る 森林を活かす

遠く離れた存在に見える森林と私たちの暮らしは、今でもしっかりとつながっています。

緑の募金は、皆様からの募金を適正に運営管理しています。



「緑の募金」はいつでも、どこでも、だれでも参加できます！